

## 文学〈H02A〉

配当年次	全学年
授業科目単位数	4
科目試験出題者	秋山 嘉・岡本 正明・真田 健司・相田 淑子
文責(課題設題者)	秋山 嘉・岡本 正明・真田 健司・相田 淑子
教科書	<b>基本</b> 法学部外国語部会(編)『文学』(中央大学通信教育部)

### 《授業の目的・到達目標》

文学作品を自分で読み、それによって感じたり考えたりした内容を他者に明確に伝える努力をすること。

### 《授業の概要》

人びとは大昔から現代まで、経験したこと、感じたこと、考えたことを、語り伝えたり、文字で記録したりしてきました。そこでは個人的な問題が対象となるのはもちろんですが、特定の時代を超えて人間や社会にとって普遍的な問題が取り扱われる場合もあります。16世紀から17世紀にかけて活躍したシェイクスピアの芝居が今でも繰り返し上演されているのは、舞台を現代の状況に合わせた設定にしたとしても私たち観客に通じる要素、感じさせ考えさせるような要素が、もとの作品自体にあるからです。

文学作品には現実の生活を補足する一面があり、実際に経験しなかったことでも小説の読者は擬似体験できます。『ロビンソン・クルーソー』の物語が出たとき、当時の18世紀の人びとは、ピューリタニズムに基づく信仰と初期資本主義の旺盛な精神を孤島のロビンソン・クルーソーの中に読み取り、実生活において活力を与えられました。

文学作品は、作者の想像力・創造力によって組み立てられています。作者が伝えたいことがよく伝わるように人生の素材が生かされ作り直されて、作品が出来上がります。

みなさんが法律を学ぶことは、人間を、そして社会を学ぶことでもあります。文学を学ぶことは、人間と社会の問題を、法学や政治学や社会学などとは違う形で、文学でしかできない形で問い、考えることです。そうするためには、読者であるみなさんの方でも想像力が必要となります。逆に、想像力を働かせるきっかけとなる最良のもののひとつが文学作品であるとも言えます。そのようにしてそれは、みなさんが社会の中の人間として、そして人間らしい人間として、成長していく力を養う助けになるのです。

### 《学習指導》

自分の力で読む努力をすることに尽きます。読んで、登場人物、すなわち自分にとって他人である人物のことを、我が身のこととして捉えるよう想像力を働かせてみるのが大切です。そうして得られた自分の考えを明確化し、独りよがりでない文章に表してみる練習をしてください。その際、世の意見を参考に自分の見方を広げ、考え直すのは構いませんが、それを真似たり引きずられるがままになったりしないよう十分気をつけてください。

### 《成績評価》

試験(科目試験またはスクーリング試験)により最終評価します。

## 文学〈H02A〉

- ◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）  
◎字数制限：1課題あたり2,000字程度（作成基準のとおり）

### 第1課題

教科書第一部「日本文学」および第五部「その他の文学」のそれぞれの項で中心的対象としてあつかわれている作品のなかから、1つだけを選んで原作（第五部の場合は翻訳）を読み、あなたが感じたことを書きなさい。自由に論じてよいが、具体的にどの部分に強い印象を持ったか、心を動かされたか、とまどったか、興味をかきたてられたかなど、必ず原作（翻訳）のその部分の引用を示しながら、なるべく丁寧に詳しく説明しなさい。ただし、作文としてのまとまりを考えて分かりやすく書くこと。

なお、芥川龍之介の作品（「鼻」「羅生門」「芋粥」）について論じる場合、三つのうちひとつでも複数でも対象としてよい。

どの作家について論じる場合も、選んだ作品名を最初に明記するように。

#### 〈推薦図書〉

教科書のそれぞれの項の参考文献を参照。

### 第2課題

シェイクスピア『リア王』、ジョン・ミルトン『楽園喪失』、トマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』、アーネスト・ヘミングウェイ『武器よさらば』のうち1作品を選び、テーマを設定して論じなさい。

#### 〈推薦図書〉

深澤 俊 『慰めの文学』（2002年） 中央大学出版部

### 第3課題

教科書第三部「ドイツ文学」で扱われている7編の作品のうち1編を選び、みずから設定した問いに答える形で論じなさい。かならず冒頭に適切なタイトルを付し、問い（テーマ）を明示すること。また自分で作品を通読・解釈したことが採点者に伝わるよう、テキストに即して具体的に論述すること。問題設定を欠いた単なる感想文、あらすじや伝記的事実の単なる羅列、もしくは第三者の論述の無断引用と判断される場合は、評価の対象にならない。

#### 〈推薦図書〉

手塚 富雄・神品 芳夫	『増補 ドイツ文学案内』（1993年）	岩波文庫
柴田 翔	『はじめて学ぶドイツ文学史』（2003年）	ミネルヴァ書房
前野 光弘・鈴木 克己・青木 誠之	『知っておきたいドイツ文学』（2011年）	明治書院
三木 恒治	『新しく読むドイツ文学』（2009年）	あきづ 蜻文庫
松村 朋彦	『五感で読むドイツ文学』（2017年）	鳥影社

## 第4課題

教科書第四部「フランス文学」で扱われている物語作品の内一つを選び、その中でもっとも印象に残った場面を取り上げ、その場面が物語の全体の中でどのような意味を持つのか、2000字程度で論じなさい。

### 〈推薦図書〉

＊教科書のそれぞれの項の参考文献を参照してください。近年出版された翻訳書は以下です。

ラファイエット夫人（永田 千奈 訳）	『クレヴの奥方』（2016 年）	光文社（古典新訳文庫）
バルザック（中村 佳子 訳）	『ゴリオ爺さん』（2016 年）	光文社（古典新訳文庫）
スタンダール（野崎 敏 訳）	『赤と黒』（上）（2007年）（下）（2007年）	光文社（古典新訳文庫）